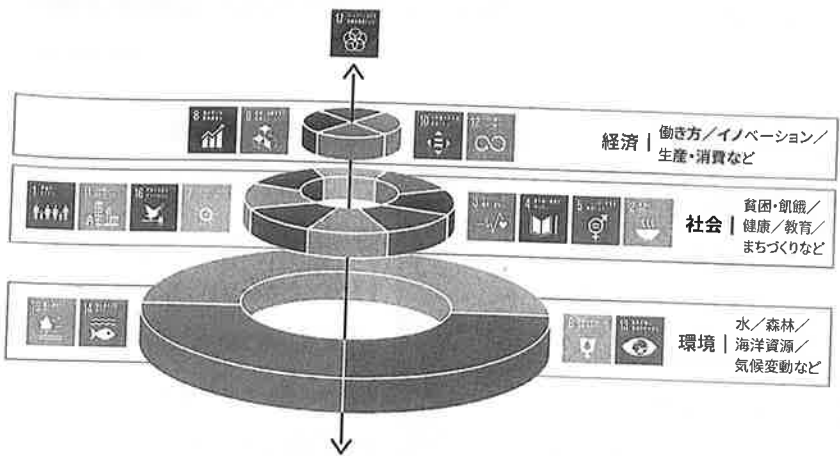


一七の目標にはどんな意味があるか

17の目標は、働き方や生産・消費など経済に関する課題、健康や教育など社会に関する課題、気候や生きものなど環境に関する課題の3つの分野から構成されています。「経済」は「社会」に、「社会」は「環境」に支えられています。そして、パートナーシップは経済・社会・環境すべてに共通するものです。



「愛知県SDGsガイドブック」より

課題解決のための世界の取組み

- 一九七二年
国連人間環境会議（通称ストックホルム会議）
各国で環境悪化が見られ、その原因に急速な経済成長があるという共通認識が高まり、国連が「環境」と「開発」に関する最初の国際会議を開催。
- 一九九二年
国連環境開発会議（通称地球サミット）
一七〇を超える当時のほぼすべての国が参加し、うち一〇カ国ほどは国家元首や首相が参加。環境と開発を不可分なものとして捉えて開催。
- 二〇〇二年
国連「持続可能な開発に関する世界首脳会議」（通称ヨハネスブルグサミット）
経済、社会、環境の持続可能性という三側面で捉えはじめた。
- 二〇一五年
SDGs、すなわち持続可能な開発目標は、国連総会で全加盟国が合意し、二〇三〇年までにそのような社会を実現することを目指した。

障がい者雇用 ホンダロジコム

SDGsを根幹に今、企業に求められるのは「社会貢献」です。八田町の「ホンダロジコム」（本多敦社長）は二〇二三年一月に創業六十周年を迎えます。同社は「物流技術と情報を通じて社会に貢献する企業づくりを目指す」を企業理念とし、日々まい進しています。

初代社長はボクサーとして活躍し、トヨタ自動車ボクシング部のコーチをしているとき、社内清掃を依頼され、中日クリーナー工業（現中日コプロ）を設立し、総合メンテナンスの他に荷役梱包や各種車両の運搬業務などを行いました。その後は、自動車・光学・通販・医薬品・アパレル・通信機器・物流不動産・医療機器・衛生陶器・輸出入代行と事業の拡大により、総合物流産業へと発展を遂げています。

創業者の思いは代々の社長や従業員たちに脈々と受け継がれています。二〇一一年未曾有の大災害を巻き起こした「東日本大震災」では、当時の社長が被災地に駆けつけて「清掃ボランティア活動」を

敢行。思いは社内へと届けられ、いち早く支援事業に着手し、障がい者雇用やマイナースポーツのフィールドホッケー選手の社員登用制度などに力を入れています。「誰一人取り残さない」をスローガンに掲げるSDGsの取り組みにピタリとハマります。一つの項目に特化するのではなく、すべてが縦線と横線で繋がっていることで、諸所へと広がりつつあります。

物流庫内の軽作業は、20年にわたり障がいのあるスタッフが活躍しています。「同じ作業をコツコツと繰り返し行うことが出来る適性があります」と担当者はい、障がいのある人でも「企業の戦力として、それぞれの持ち味を生かして力を発揮していただいています」とアピール。障がいのある人が「働く喜びを感じながら、長く働くことができる場所」を確保することが社会貢献の一つと捉えています。

二〇一七年一月から新たなプロジェクトを展開。障がいのある人への「自立支援」が目的の「障がい者ファースト」を推進しました。同市花長町に九九〇㎡の農場を設置して、キララゲの栽培を開始。農業にズームしたのは「自然と触れ合うことで生きたい